

協力会活動報告

- ・役員会を3回開催
- ・春日部福音自由教会旧牧師館2階の一部を協力会の事務所として使用する備えをした

高橋敏夫主幹伝道者の奉仕教会

札幌福音自由教会、新松戸福音自由教会、滝山聖書バプテスト教会、気仙沼聖書バプテスト教会、カトリック大阪教区、阿武山福音自由教会

その他の活動

軽井沢恵みシャレー主催「茶道とキリスト教」セミナー、春日部市民文化講座講演、第19回丘の上チャリティー茶会席主、東欧研修

サポートのお願い

当協力会は、本会の趣旨に賛同する方々の祈りと献金によって支えられ、運営されております。ご支援いただけます方は、同封の振込用紙、または専用の封筒をご利用くださり、お献げいただきたいと存じます。

日本文化宣教協力会事務局
〒344-0067

埼玉県春日部市中央1-5-1-7

春日部福音自由教会内

Tel 048-735-4765

Fax 048-735-4726

Eメール y-gospel@jcom.zaq.ne.jp

郵便振替

ゆうちょ銀行春日部店

口座番号 00140-9-394018

加入者名 日本文化宣教協力会

日本文化宣教協力会ニュースを、今後はEメールにてお届けしたいと考えています。メールでの配信を希望される方は、協力会事務局までお知らせください。

編集後記

「新年明けましておめでとうございます。」と言うことを憚るほど、第7号の発行が遅れてしまい申し訳ありません。昨年も、諸教会や団体で、高橋敏夫主幹伝道者を用いてくださり、宣教と交わりを持たせていただいたことを、感謝しております。2016年9月に、いのちのこぼれ社から「データブック、日本宣教のこれからが見えてくる」が第6回日本伝道会議に合せて出版されました。その中に「近年、福音宣教に対するカトリックの宣教用語として、インカルチュレーション(文化的受肉、文化内開花)モデルが注目されている」とありました。福音をこの国に宣べ伝えることは、主イエスを救い主と信じている全てのキリスト者、教会の務めであり、共に学び合うことの必要をあらためて思わされました。福音派においてはコンテクスチュアリゼーション(文脈化、文化脈化)という言葉が使われ、キリストの福音をホーリスティック(包括的)に理解し提示することが提起されてきました。日本の文化の中で福音を宣教することをさせているのがカタカナが多く、日本語で表現したいものです。最初にキリスト教が伝えられ時代の宣教師の一人ヴァリニャーノは、日本人に福音を伝えるために、適応主義と言われる宣教の方策を取りました。現代も、この国で福音が人々の心の深みにまで落ちて実を結ぶために、福音が変えられるのではなく、私たちの意識と方法が変えられていく必要があるのではないのでしょうか。

今月は遠藤周作原作の「沈黙」が日米共同の映画として全国で上映されます。また、2月には高山右近の列福式が予定されています。そして今年は、宗教改革500周年にあたります。本協力会も、21世紀の新しい宗教改革に寄与できるよう、励んでまいりたいと思います。

本年も、よろしくお願いたします。

山田豊

日本文化宣教協力会 ニュース

発行: 日本文化宣教協力会事務局
2017年1月31日発行 第7号

Vol.7



巻頭言

日本文化宣教協力会

主幹伝道者 高橋敏夫

喜寿を迎えて表千家のおもてなしをお受けして、約50年代の表千家修道の区切りとなった思いがする。

山田豊牧師が付き添いで参加し、京都文化に触れる機会を得た。四条橋のたもとに、ポーリーズ氏が設計された建物が中華料理店となっていて、不思議に違和感のないのに驚く。広島原爆ドームを初めて観たとき、美しさを感じたが、この建物は広島を代表するもので、ロシアの設計者によると後で聞いて、なるほど感じ入った。心のこもったものにはいのちが宿っている。

日本においては少数派であるキリスト教会がいのちの福音をしっかりと表現するならば、それはキリスト教文化として後世の遺産となるであろう。たとい表面上の姿が変化してもいのちある文化が遺産として子々孫々受け継いでいられるであろう。

降誕祭の季節、永年の願いであったプラハ、ウィーン、ブタペストの都とその周辺の文化遺産に触れる機会を得た。キリスト教国と言われて来た国々のクリスマスがどのようなものかを肌で感じようと思ったからである。クリスマスマーケットが浅草の浅草寺羽子板市や、新年初詣で賑わうように、大賑わいである。観光客と地元の家族達が入り交じって、それは賑やかで、ヨーロッパのご降誕祭の祝い方が家族を核としてお祝いされている様子をうかがい知ることが出来た。長い歴史の中で育まれてきたヨーロッパのご降誕祭の喜びの

表れである。帰国して間もなく、そのような家族ぐるみの祝いの場、ベルリンのクリスマスマーケットにテロが襲いかかり、12人の死者と数十名の人々が負傷している。これが今の時代を象徴している悲劇の姿でもあると心に刻む。

日本の教会においてご降誕祭の祝い方は、日本の教会の表現になっていないと感じてきた。それは、どこぞの国の物まねであり、コピーであり、商業主義に乗じたクリスマスになっていて、イエス・キリストが全く見失われているように思える。クリスマスが終わると私たちは新年のお祝いをする。むしろ、新しい「主の年」のお祝いこそが、ご降誕祭を皮切りに、教会の家族ぐるみの祭りをした方が歴史に沿った年末年始の祝い方とはならないだろうか。

2016年を振り返って、札幌、名古屋、大阪、関東の講演会や伝道会で働かせていただいた事は、主イエスのお導きとしかいいようがなかった。新しい年、どのように導かれ、奉仕をすることができると期待している。遅くなりましたが、ご降誕祭おめでとうございます。そして、新年おめでとうございます。



表千家同門会喜寿の祝い
而妙齋宗匠とともに

2016年5月24日
国立京都国際会館